

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	建築デザイン I
科目基礎情報						
科目番号	0183		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建設システム工学科		対象学年	4		
開設期	後期		週時間数	4		
教科書/教材	尾上亮介, 竹内正明, 小池志保子「図解 ニッポン住宅建築」(学芸出版社)					
担当教員	尾上 亮介,西井 正志					
到達目標						
1 住宅のコンセプトを企画することができる。 2 住宅の設計ができる。 3 住宅の図面が描ける。 4 住宅の模型が作れる。 5 提案内容を発表できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	正確に住宅のコンセプトを企画することができる		適切に住宅のコンセプトを企画することができる		適切に住宅のコンセプトを企画することができない	
評価項目2	正確に住宅の設計ができる		適切に住宅の設計ができる		適切に住宅の設計ができない	
評価項目3	正確に住宅の図面が描ける		適切に住宅の図面が描ける		適切に住宅の図面が描けない	
評価項目4	正確に住宅の模型を作ることができる		適切に住宅の模型を作ることができる		適切に住宅の模型を作ることができない	
評価項目5	正確に提案内容を発表できる		適切に提案内容を発表できる		適切に提案内容を発表できない	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (H) 学習・教育到達度目標 (I)						
教育方法等						
概要	この科目は、企業で建築やインテリアの設計を担当していた教員が、その経験を活かして、建築の設計に関する内容を演習形式で授業を行うものである。 【授業目的】 住宅の設計案の制作を通して、設計条件の分析、住宅の機能、寸法、空間構成、構法、製図法、プレゼンテーションなどについて学ぶ。 【Course Objectives】 1.Skills for design of housing space 2.Skills for presentation and drafting					
授業の進め方・方法	【授業方法】 ・演習形式で毎週進行状況と内容を確認しながら進める。 【学習方法】 ・演習授業のため、授業内で分からないことは各自質問すること。 ・黒板で解説した内容はノートを取ることを。 ・課題ごとに提出を行う。					
注意点	【定期試験の実施方法】 定期試験は行わない。提出物による。 【成績の評価方法・評価基準】 提出作品+プレゼンテーションで総合評価（100%）を行う。 コンセプト企画力、設計、製図、模型製作、提案書作成についての到達度を評価基準とする。 【履修上の注意】 エスキースは手書きのスケッチを行う。図面制作にはC A Dを用いる。 【教員の連絡先】 研究室 A棟3階 A-306 内線電話 8963 e-mail onoeアットマークmaizuru-ct.ac.jp（アットマークは@に変えること。）					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明、住宅の設計課題1出題と解説、設計条件の整理	1		
		2週	設計案の立案とチェック、コンセプトの抽出、エスキース	1		
		3週	設計案の立案とチェック、設計1	2		
		4週	設計案の立案とチェック、設計2	2		
		5週	製図	3		
		6週	製図・模型製作	3		
		7週	模型製作	4		
		8週	プレゼンテーション	5		
	4thQ	9週	住宅の設計課題2出題と解説、設計条件の整理	1		
		10週	設計案の立案とチェック、コンセプトの抽出、エスキース	2		

	11週	設計案の立案とチェック, 設計1	2
	12週	設計案の立案とチェック, 設計2	2
	13週	製図	3
	14週	製図・模型製作	3, 4
	15週	プレゼンテーション	5
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	設計・製図	ソフトウェアを用い、各種建築図面を作成できる。	4	後5,後6,後12,後13,後14
				与えられた条件をもとに、コンセプトがまとめられる。	4	後1,後2,後9,後10
				与えられた条件をもとに、動線・ゾーニングのエスキスができる。	4	後1,後2,後9,後10
				与えられた条件をもとに、配置図、各階平面図、立面図、断面図などがかける。	4	後3,後4,後11,後12,後13,後14
				設計した建築物の模型またはパースなどを製作できる。	4	後6,後7,後14
				講評会等において、コンセプトなどをまとめ、プレゼンテーションができる。	4	後8,後15
				敷地と周辺地域および景観などに配慮し、配置、意匠を検討できる。	4	後1,後2,後9

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0